

令和7年度 学校経営報告

府中市立府中第三小学校長 関 修一

1.令和7年度 学校経営の成果と課題

① 問題解決能力の育成

校内研究で算数科・理科の研究をすすめ、各学年1回年間6回の研究授業を実施した。理科の研究については、主体的な問題解決のプロセスを理解して授業づくりができるようになってきた。来年度以降は、新指導要領の方向性を意識しながら自主発表会に向けて授業改善を進めていく。

② 児童の気持ちによりそった指導(児童理解・不登校対応)

特別支援に関する研修や心の健康観察などを充実させることで、児童の気持ちによりそった指導ができるようになってきている。また、不登校対応についての研修を通して、不当に対する理解を深め、組織的に対応することができるようになってきている。

③ 新校舎の施設を生かした学校運営

今年度、4月から新校舎での学校生活が始まり新たな生活のきまりを作る必要に迫られた。児童の動線を中心に据えてルール作りを進めることができた。また、展覧会ではアリーナを使わずに各階のラウンジを活用して展示を行い、保護者からも好評をいただいた。

④ 学校からの情報伝達の充実

スマート連絡帳を活用して、必要な情報を保護者に提供することができた。今年度は、定期的にホームページの更新をしていたが2学期後半にまとめて更新することになってしまいさらなる改善が必要と感じている。ホームページの、トップページにも個人情報にかかわらない内容のものを更新していくようにする。

⑤ 学校経営支援予算

学校支援員が特別に支援を必要とする児童に対応することで、落ち着いて授業を進めることができている。昨年同様今年度も、新1年生の入門期である5月中旬まで各教室に1名の支援員を配置し、小学校生活に慣れさせるようにしている。この取組を行うことで新1年生が学校生活に早めになれることができた。この取り組みは来年度も続けていく。

⑥ 不登校対応

「サポートルーム」が定着してきて、安心して利用できるようになってきている。全ての時間に支援員を配置するとともに、サポートルームでの様子を担任と支援員が共有できるような引継ぐシステムを取り入れた。

⑦ 教員の働き方改革に関する取組

東京都のアウトリーチ型相談事業を活用して、本校の課題について確認をした。昨年度課題であった業務量等は改善が見られた。来年度は、休暇の取得率を上げる取り組みを進めていく。

2. 令和8年度の取り組みと具体的な方策

(1) 学力向上

①理科・生活科を校内研究に位置付け問題解決能力の育成に取り組む(継続)

来年度から府中市教育委員会の研究奨励校として、理科・生活科を研究教科として問題解決能力の育成に取り組む。各学年1回ずつ合計6回の授業研究を行い、日常の授業の質を高めていく。

また、全国小学校理科研究協議会・東京大会の会場校として令和9年度の研究発表会にむけて新指導要領の観点を取り入れた指導を開発していく。

令和9年2月には、発表会を実施する。

②新端末を活用した授業の充実

来年度には、児童用の新端末も配備されるので、デジタルを活用した指導の充実をはかり、新校舎として新しく準備されたホワイトボードを活用して、個別最適な学習や協働的探究学習を進める。

(2) 人材育成

①若手教員の指導力向上(継続)

学年会で指導について足並みをそろえるとともに、基本的な授業の流れや一単位時間の目標を明確にするなど授業力を高める取り組みを進める。企画調整会議と同時にOJT研修会を実施し、経験豊かな教員のスキルを伝えていくようにする。

②主任教諭の育成(継続)

ミドルリーダーとなる主任教諭の育成を計画的に進める。

校務分掌の中で、学年主任や各所委員会・部会の主任に配置し、その分掌の運営責任者として分掌組織の進行管理や運営力を育成する。学年や分掌に副主任を配置し、ミドルリーダーとしての意識も育てていく。

(3) 小中連携

管理職・小中連携コーディネーターを中心に小中連携を推進する。来年度は、研究発表会時に全学級の授業を見てもらう。協議については別日に行い、授業連携につなげていけるようにする。

(4) 校舎活用の取組

学校生活での校舎活用についてのルール作りはできてきている。来年度は、災害時の避難所としての新校舎の活用計画について整備していく。